

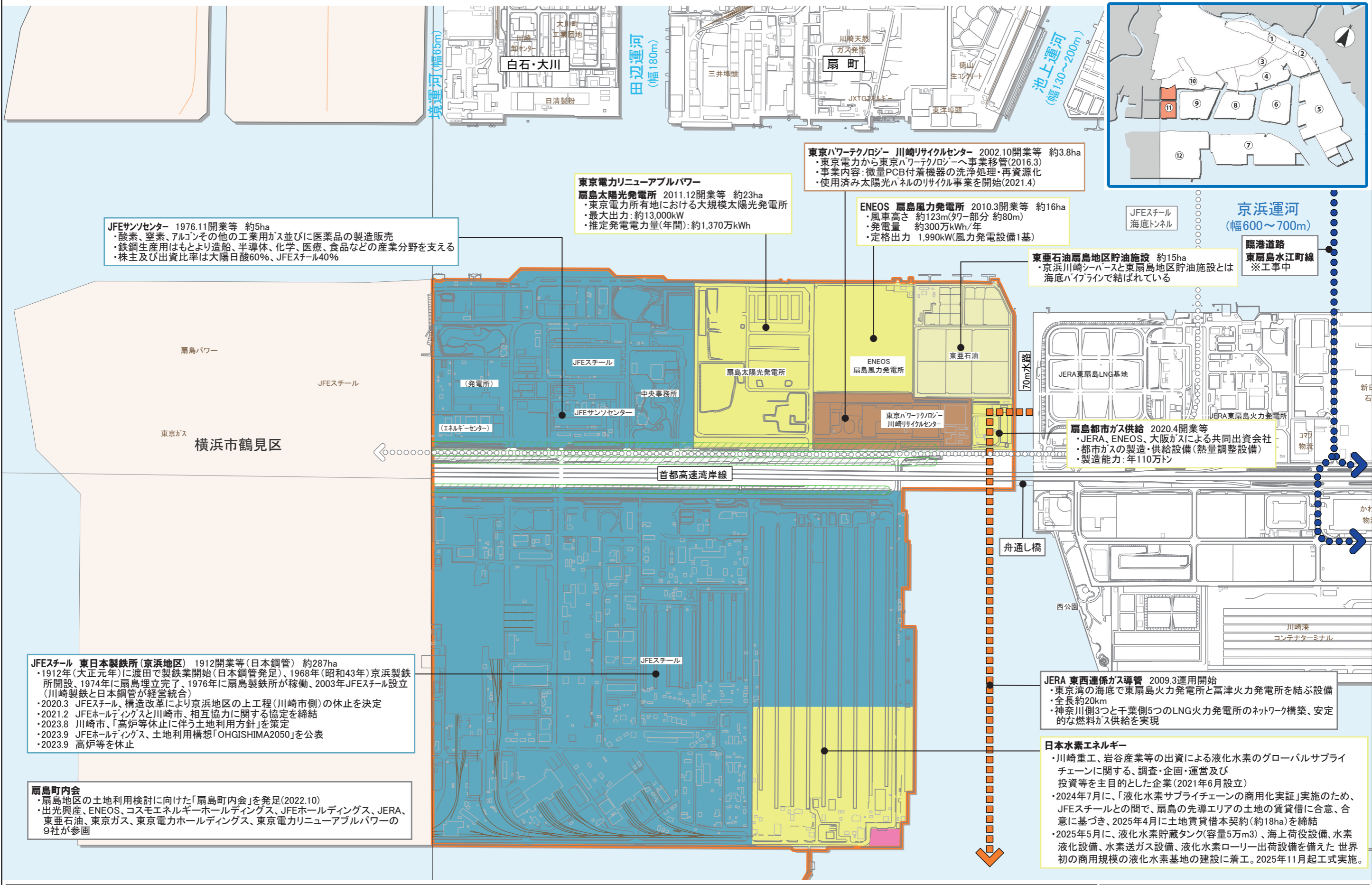
凡例

対象地区範囲	バス停	警察署	製造(石油・石油化学)	公共用地	その他
	鉄道駅	消防署	製造(石油・石油化学以外)	物流	公園等
	工業用水道		リサイクル	エネルギー	研究開発

SCALE 1/12000

0 100 300 500m

扇島地区 12



JFEサンソセンター 1976.11開業等 約5ha
 ・酸素、窒素、アルゴンその他の工業用ガス並びに医薬品の製造販売
 ・鉄鋼生産用はもとより造船、半導体、化学、医療、食品などの産業分野を支える
 ・株主及び出資比率は大陽日酸60%、JFEスチール40%

東京電力リニューアブルパワー 扇島太陽光発電所 2011.12開業等 約23ha
 ・東京電力所有地における大規模太陽光発電所
 ・最大出力:約13,000kW
 ・推定発電電力量(年間):約1,370万kWh

東京パワーテクノロジー 川崎リサイクルセンター 2002.10開業等 約3.8ha
 ・東京電力から東京パワーテクノロジーへ事業移管(2016.3)
 ・事業内容:微量PCB付着機器の洗浄処理・再資源化
 ・使用済み太陽光パネルのリサイクル事業を開始(2021.4)

ENEOS 扇島風力発電所 2010.3開業等 約16ha
 ・風車高さ 約123m(タワー部分 約80m)
 ・発電量 約300万kWh/年
 ・定格出力 1,990kW(風力発電設備1基)

東亜石油扇島地区貯油施設 約15ha
 ・京浜川崎シーハースと東扇島地区貯油施設とは海底パイプラインで結ばれている

扇島都市ガス供給 2020.4開業等
 ・JERA、ENEOS、大阪ガスによる共同出資会社
 ・都市ガスの製造・供給設備(熱量調整設備)
 ・製造能力:年110万トン

JERA 東西運係ガス導管 2009.3運用開始
 ・東京湾の海底で東扇島火力発電所と富津火力発電所を結ぶ設備
 ・全長約20km
 ・神奈川側3つと千葉側5つのLNG火力発電所のネットワーク構築、安定的な燃料ガス供給を実現

日本水素エネルギー
 ・川崎重工、岩谷産業等の出資による液化水素のグローバルサプライチェーンに関する、調査・企画・運営及び投資等を主目的とした企業(2021年6月設立)
 ・2024年7月に、「液化水素サプライチェーンの商用化実証」実施のため、JFEスチールとの間で、扇島の先導エリアの土地の賃貸借に合意、合意に基づき、2025年4月に土地賃貸借本契約(約18ha)を締結
 ・2025年5月に、液化水素貯蔵タンク(容量5万m³)、海上荷役設備、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備を備えた世界初の商用規模の液化水素基地の建設に着手。2025年11月起工式実施。

JFEスチール 東日本製鉄所(京浜地区) 1912開業等(日本鋼管) 約287ha
 ・1912年(大正元年)に渡田で製鉄業開始(日本鋼管発足)、1968年(昭和43年)京浜製鉄所開設、1974年に扇島埋立完了、1976年に扇島製鉄所が稼働、2003年JFEスチール設立(川崎製鉄と日本鋼管が経営統合)
 ・2020.3 JFEスチール、構造改革により京浜地区の上工程(川崎市側)の休止を決定
 ・2021.2 JFEホールディングスと川崎市、相互協力に関する協定を締結
 ・2023.8 川崎市、「高炉等休止に伴う土地利用方針」を策定
 ・2023.9 JFEホールディングス、土地利用構想「OHGISHIMA2050」を公表
 ・2023.9 高炉等を休止

扇島町内会
 ・扇島地区の土地利用検討に向けた「扇島町内会」を発足(2022.10)
 ・出光興産、ENEOS、コスモエネルギーホールディングス、JFEホールディングス、JERA、東亜石油、東京ガス、東京電力ホールディングス、東京電力リニューアブルパワーの9社が参画